



インドネシアの銀行が第二次 RTGS の基幹メッセージ・プラットフォームに SWIFTNet を採用

SWIFT としてアジア太平洋地域で 9 番目となる大口決済システム

【Sibos アムステルダム（オランダ）10月27日（現地時間）発】世界規模の金融メッセージング・サービスを展開する SWIFT は、本日インドネシア中央銀行が同国の銀行向けに第二次即時グロス決済（BI-RTGS）および無券面証券決済システム（BI-SSSS）を利用するための基幹メッセージ・プラットフォームとして SWIFT を採用すると発表しました。

この動きは、オーストラリアの PDS、英国の CHAPS、香港の CHATS、欧州の CLS や TARGET2 など、世界の主要な RTGS システムが SWIFT をメッセージ・プラットフォームとして採用した時代の潮流に従ったものです。インドネシアはアジア太平洋地域において、SWIFT の採用を決定した 9 番目の国です。

SWIFT は広域に展開する 5 つの取り組み（TARGET2、BCEAO、BEAC、COMESA、ECCB）を含めた世界 90 ヶ国超をカバーする 60 以上の大口決済システムを接続します。

インドネシア中央銀行 会計・決済システム担当ディレクターのロナルド・ワース氏は「BI-RTGS と BI-SSSS を利用する銀行の多くは、コルレス銀行とのクロスボーダー取引において長年に渡り SWIFT を利用してきました。第二次 BI-RTGS ・ BI-SSSS のメッセージ・プラットフォームとして SWIFT を採用することで、コルレス銀行は国内取引、クロスボーダー取引を問わず、シングルウインドーで共通のスタンダードに従った取り引きが可能になります。これにより、運用上のミスを減少させ、手続きの効率化を促す一貫した処理を実現します」と述べています。

ワース氏はまた「世界規模の金融メッセージング・サービスを展開する SWIFT をインドネシアの大口決済および証券決済のインフラとして採用することで、金融インフラの相互互換性の大幅な改善につながり、将来性のあるインフラとしての金融システムをもたらし、ASEAN を始めた地域の金融市場との統合を促進するでしょう」と加えています。

SWIFT の導入においては、BI-RTGS と BI-SSSS 取引の際に、SWIFTFINY-Copy、Browse、FileAct、InterAct などのメッセージングサービスの使用も含まれます。

SWIFT アジア太平洋地域最高責任者のイアン・ジョンストンは「インドネシアの力強い経済成長は、インドネシア国内のみならず、ASEAN やその他の地域にまで好ましい波及効果を生むでしょう。SWIFT のメッセージ・プラットフォームへの移行は、インドネシアの金融サービス産業や将来の成長につながる強固な基盤を提供することになります」と述べています。

同国の SWIFT 導入は 2011 年の第一四半期から始まり、銀行での試験運用が 2011 年第三四半期、金融界全体での試験運用が 2012 年の第一四半期から開始されます。第二期 BI-RTGS および BI-SSSS の採用は 2012 年の第三四半期から実稼働することが期待されています。

インドネシア中央銀行は、本年度末までに SWIFT に接続する中間システムの開発などを新規に取り扱う企業コンソーシアムを発表します。

参考情報

SWIFT のメッセージ・プラットフォームを金融市場のインフラとして採用する世界的潮流は、欧州において、イングランド銀行の NewCHAPS とドイツの RTGSplus が 2001 年に SWIFTNet で稼働を開始したことに起因します。その後、2002 年に CLS、2003 年にイタリア銀行の BIREL、2007 年に欧州域内の TARGET2 ので採用が続きました。

アジア太平洋地域では、1997 年からオーストラリアが、1998 年からニュージーランドが、FINCopy サービスをそれぞれ 10 年以上にわたって利用しています。2001 年にはフィリピンとタイが次世代 RTGS システムに SWIFT のメッセージ・プラットフォームを採用し、2003 年にはスリランカ、2006 年にシンガポール、そして 2007 年にフィジーと続きました。2009 年 5 月には香港金融管理局と香港銀行同業結算有限公司が独自のプラットフォームから SWIFTNet FIN に移行し、2010 年 7 月には SWIFT のすべての製品およびサービスを利用するほどになりました。

TARGET2 は、主に中央銀行通貨での大口ユーロのリアルタイム決済を扱う共有シングルプラットフォームです。TARGET2 は 2007 年 11 月 19 日に稼働を開始しました。

BCEAO(Central Bank of West African States)は、アフリカの 8 ヶ国（ベナン、ブルキナファソ、コートジボワール、ギニアビサウ、マリ、ニジェール、セネガル、トーゴ）を対象にシングル RTGS プラットフォームを採用した地域的な取り組みです。

BEAC(Bank of Central African States)は、アフリカ中部の 6 ヶ国（カメルーン、中央アフリカ共和国、赤道ギニア、ガボン、コンゴ民主共和国）を対象にシングル RTGS プラットフォームを採用した地域的な取り組みです。

COMESA RTGS (Common Market for Eastern and Southern Africa)は、COMESA 加盟国間で RTGS システムを連結する地域的な取り組みであり、欧州における TARGET2 と類似しています。

ECCB (Eastern Caribbean Central Bank)は、カリブ地域の独立国 6 ヶ国と英国海外領土 2 ヶ所の金融管理局です。

.....
SWIFT について

SWIFT はメンバーが所有する共同組合形式の組織であり、世界 209 ヶ国 9,500 社以上の銀行、証券会社、事業法人などを接続したコミュニケーションプラットフォーム、および関連製品、サービスを提供しています。SWIFT は、ユーザー間での金融情報の通信・データ交換を自動化、標準化された安全性の高い確実な手段で提供し、その結果としてユーザーのコスト引き下げ、オペレーションのリスク削減や非効率性の排除を実現しています。また SWIFT は、金融業界との協働を通じて、市場慣行の形成、標準仕様の定義、共通する諸問題に関する意見交換・議論の場を提供するなど、業界全体のまとめ役としての役割も果たしています。より詳細情報については、弊社ウェブサイト（www.swift.com）をご参照ください。

◆本リリースに関するお問合せ先

スイフト・ジャパン広報担当
ウェーバー・シャンドウィック・ワールドワイド株式会社
鈴木 大輔
tel : 03-5427-7411
e-mail : dsuzuki@webershandwick.com